

地方創生推進交付金

1. 富山型生涯活躍のまちを見据えたコンパクトシティの深化 [H28～R2]

高齢者やひとり親等の様々な世代や立場の方々の、就労、交流、医療・介護、生活情報等の提供を一元化することにより、「地域包括ケア拠点施設」や「ライフライン共通プラットフォーム」等によりワンストップで提供し、住民が効率的に良質な時間とサービスを消費することを可能とする。

総事業費(千円)

H28	H29	H30	R1	R2	期間計
66,000	65,639	117,543	85,954	29,887	365,023

(1) 高齢者等の外出・交流機会の創出と滞在型交流型観光による交流人口の拡大(事業費:75,100千円)

- ① GPS端末機による調査(高齢者)や、スマホアプリ等による調査(全世代)を通じ、交通行動と健康(歩行数・医療費等)の相関関係などをオープンデータ化するとともに、全世代の歩行数の増加と交流の機会を創出し「健康寿命の延伸」と「中心市街地活性化」に繋げる。
- ② 中心市街地や公共交通沿線に特化した、滞在型・交流型観光等により、将来的な中心市街地等での定住・半定住に繋げる。

(2) 高齢者・女性・ひとり親等の就労支援・活躍推進とシビックプライドの醸成(事業費:175,249千円)

- ① 65歳以上の高齢者を対象に「(仮)高齢者人材バンク」により、首都圏の商社等の勤務経験者など専門知識を持った高齢者等と中小企業をマッチングする。
- ② 専属のコーディネーターがワンストップでひとり親に寄り添ってサポートする。
- ③ 「くすり関連施設」を中心市街地に開設することについて検討する。
- ④ 演劇ワークショップ等によるシビックプライドの醸成。
- ⑤ 多様な働き方を詳細な数値を用いて示し、地元での進学・就職につなげる。
- ⑥ 「富山型コンパクトシティ」のレピュテーション向上を図ると共に都市としてのブランド力の向上を図る。

(3) 「地域包括ケア拠点施設」と「ライフライン共通プラットフォーム」による暮らしの質の向上(事業費:114,674千円)

- ① 「地域包括ケア拠点施設」での多世代の交流を促す先導的モデル事業(「まちなかサロン」の人材育成、「産後ケア応援室」のニーズ調査、官民連携事業の実施等)
- ② 「地域包括ケア拠点施設」の蓄電池整備
- ③ 「ライフライン共通プラットフォーム」による災害・工事情報等のライフラインに関する情報の一元的提供

【KPI】

内容	単位	基準値	H28		H29		H30		R1	R2
			計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	
1 年間公共交通利用者数(市内鉄軌道・路線バス)	千人/年	23,146	23,232	24,066	23,274	24,263	23,317	24,472	23,360	23,403
2 公共交通沿線居住(公共交通が便利な地域に住む)人口の割合	%	32	33	37.0	37.56	37.10	38.12	37.20	38.68	39.24
3 健康な高齢者の割合	%	81.0	81.0	81.5	81.0	81.5	81.0	81.1	81.0	81.0

2. 交通空間の利活用交流推進事業(トランジットモール化の検討等) [H28~H30]

LRTが走行する交通空間での賑わい創出(イベントにあわせたトランジットモール化等)により、コンパクトシティ施策の象徴となる「誰もが自然と歩きたくなる歩行空間」を形成するとともに、回遊性の向上の観点から、①パブリックサイン、②イベント空間、③コンシェルジュ機能を有するまちなか体験施設を整備する。

総事業費(千円)

H28	H29	H30	R1	R2	期間計
41,900	25,000	30,000	—	—	96,900

(1) 交通空間を活用した賑わいの創出(イベントにあわせたトランジットモール化の検討)(事業費:44,000千円)

①地元住民とのワークショップの開催、②実証実験(H29)、③本格実施に向けた施設整備(H30)

(2) 大型景観バナーフラッグの掲出による良好な歩行空間の形成 ⇒ 補助対象外

(3) 大手モール周辺・富山駅周辺のパブリックサインの整備による回遊性の向上(事業費:14,200千円)

(4) 総曲輪ウェストプラザ・大手モール(ポケットパーク)等のイベント空間の整備(事業費:20,000千円)

①イベント空間のニーズ調査・回遊性調査、②空間デザイン・施設設計、③施設整備、④関係備品購入
※施設整備は拠点整備交付金を活用

(5) 富山駅から中心商業地区の回遊性の向上を目的としたまちなか体験施設の整備(事業費:18,700千円)

①城址公園敷地内でのまちなか体験施設の整備(外国人をターゲットとした甲冑着用やイベントにあわせた乗馬体験等)、②コンシェルジュによる案内業務
※施設整備は拠点整備交付金を活用

【KPI】

内容	単位	基準値	H28		H29		H30		R1	R2
			計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	
1 路面電車(市内電車及び富山ライトレール)の1日平均利用者数	人/日	17,455	17,683	18,151	17,797	19,917	17,911	20,084	18,025	18,139
2 中心商業地区及び富山駅周辺地区の計12地点の歩行者通行量(日曜日)	人/日	66,249	67,374	67,239	68,499	71,846	69,624	65,643	70,749	71,874
3 公共交通沿線居住(公共交通が便利な地域に住む)人口の割合	%	32	33	37.0	37.56	37.10	38.12	37.20	38.68	39.24

3. Toyama Town Trekking Site(市総合体育館トレッキング拠点) [H28～H30]

富山市総合体育館のデッドスペースをリノベーションし、まちなかをフィールドとしたタウントレッキングを行う拠点整備を行い、利用者の健康行動(タウントレッキング等)について、IoT等を活用することで健康効果の「見える化」を図り、商店街・企業等と連携し、「住民の健康行動と地域経済の好循環モデル」を構築する。

総事業費(千円)

H28	H29	H30	期間計
42,000	20,000	20,000	82,000

(1)基幹システムの構築と、管理栄養士等による健康行動を促すサービスの提供(事業費:74,000千円)

①エナジースタンド(栄養ドリンク等販売)、②ショップ(エゴマ関連商品等)、③ディスカバリー(専門家の継続的支援による健康効果の「見える化」、④ギャラリー(街なかの風景写真を募集・共有)

(2)商店街・民間企業と連携した「住民の健康行動と地域経済の好循環モデル」の構築(事業費:6,000千円)

①商店街と連携した健康ポイントの付与、②滞在型観光のコンテンツ化を図るためのPR

(3)「エゴマ」の健康効果を市民が実感する拠点化(エゴマ栽培機械の貸し出し等)(事業費:2,000千円)

【KPI】

内容	単位	基準値	H28		H29		H30	
			計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績
1 中心商業地区及び富山駅周辺地区の計12地点の歩行者通行量(日曜日)	人/日	66,249	67,374	67,239	68,499	71,846	69,624	65,643
2 Toyama Town Trekking Site会員数	人	0	100	0	300	132	400	136
3 健康に関する数値が改善したToyama Town Trekking Site会員の割合	%	0	0	0	15	54	20	78

4. 「海のあるスイス」を目指すALL富山観光プロジェクト [H28～R2] ※県広域事業

平成28年5月に日本版DMO候補法人として登録された(公社)とやま観光推進機構を中心に、「選ばれ続ける観光地 富山」を目指し、官民一体となって「マーケティング＝売れる仕組みづくり」と「ブランディング＝上質なライフスタイルのブランドイメージの確立」に重点的に取り組む。

総事業費(千円) ※富山市負担分

H28	H29	H30	R1	R2	期間計
—	17,283	36,299	35,400	35,400	124,382

【KPI】

内容	単位	基準値	H28		H29		H30		R1	R2
			計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績		
1 観光消費額	億円	1,635	1,743	1,448	1,851	1,561	1,959	1,494	2,067	2,110
2 アンテナショップへの来館者数	人	508,000	800,000	717,000	900,000	698,000	1,000,000	691,000	1,100,000	1,150,000
3 県立美術館等の年間来館者数	人	397,000	420,000	452,902	450,000	1,554,012	520,000	1,172,825	550,000	570,000
4 延べ宿泊者数	人	3,895,490	-	-	-	-	4,222,490	3,780,400	4,569,490	4,916,490

5. エゴマのグローバルブランド化推進事業 [H29～R1]

これまでの「エゴマの6次産業化」を深化させ、「稼ぐ産業」として「生産性向上」を目指し、「A:世界に向けたマーケティング・プロモーションの強化」、「B:エゴマの市民生活への浸透」、「C:再生可能エネルギーを活用した生産拡大と環境効果の見える化」の3つの視点から、次の具体的事業を包括的に展開する。

総事業費(千円)

H29	H30	R1	期間計
24,400	12,000	22,000	58,400

(1)『基盤強化』～市民への普及啓発とエビデンスの確立～(事業費:14,000千円)

①エゴマ市民普及啓発事業

エゴマの種子の無料配布、市民向けエゴマツアー、市民公募によるロゴマークの作成・商標登録等

②エゴマブランド化促進事業

メタボリックシンドローム予防効果研究(富山大学和漢医薬学総合研究所)、前立腺がん予防効果研究(名古屋市立大学)等

(2)『海外展開』～イタリア食科学大学等と連携した国際マーケティング・プロモーション～(事業費:5,000千円)

①日伊エゴマ連携促進事業

イタリア食科学大学等とのブレンドオイルを活用した商品開発、イタリアの関係機関等とのネットワーク強化、現地の市場調査、展示・商談会への出展等

(3)『体制強化』～官民連携プラットフォームの強化～(事業費:20,000千円)

①エゴマ6次産業化プラットフォーム推進事業

「富山市エゴマ6次産業化グループ」での試食会・ワークショップ、首都圏向けワークショップ・マーケティングの実施、「(仮)富山市エゴマブランド研究会」の設立、他地域ブランド事例の調査(全国マーケット調査)等

(4)『強い農業』～生産性向上と高付加価値化に向けた生産拡大～(事業費:19,400千円)

①再生可能エネルギーを活用した富山型農山村低炭素化モデル事業

「富山市営農サポートセンター」内での、「ソーラーシェアリング」や「地中熱ヒートポンプ」設備を活用した、高付加価値作物の栽培(環境効果の「見える化」)。農業者への再生可能エネルギーの普及と農山村部の低炭素化。付加価値の高いエゴマ等の安定生産。

【KPI】

内容	単位	基準値	H29		H30		R1
			計画値	実績	計画値	実績	計画値
1 エゴマ関連企業のエゴマ関連商品の売上高増加割合	%	0	10	222	20	40	30
2 エゴマ生産拡大に伴う新規雇用者数	人	16	20	16	30	16	50
3 エゴマ関連新商品数	品目	0	20	35	40	84	50

6. コンパクトシティにおける健康基盤まちづくり[H30～R2]

質の高いまちづくりと並行して、そこに暮らす住民の「生活の質(QOL)の向上」、「健康寿命の延伸」の観点から、データに基づいた最適な健康サービスを官民連携により提供し、市民が積極的に健康を求めることができる体制の構築と、ヘルスケア産業の育成を図る。また、認知症高齢者を支える家族にも、介護で生活を犠牲にせず、質の高い生活が送れるよう、個々の見守りに任せるのではなく、地域全体で見守る支援体制を整える等、都市政策と福祉政策にバランスよく取り組み、市民の健康力の向上を図る。

さらに、ハード・ソフト両面で質の高いまちづくりを進めていくことで、快適に健康な生活を送ることができるまちづくりを実現し、都市としての総合力を高め、市内外から選ばれるまちを目指す。

総事業費(千円)

H30	R1	R2	期間計
26,338	52,275	32,000	110,613

(1)健康長寿コンシェルジュ・サービス事業(事業費:69,538千円)

市民が、糖尿病など慢性疾患のリスクの低い段階から、特定健診などの健康チェックを受け、疾病予防・健康づくりに取り組むことを支援することにより、健康長寿の延伸と医療費削減、さらにはヘルスケア産業の育成を目指す。

(2)ICT活用による認知症高齢者行方不明早期保護事業(事業費:41,075千円)

徘徊の恐れがある高齢者に小型デバイスを身に付けてもらうと同時に、市内各所に受信端末(ゲートウェイ)を配備することで、リアルタイムに位置情報を確認できるシステムを導入し、徘徊時の早期保護体制を地域と一体となって構築する。これにより介護する家族の負担が軽減され、認知症高齢者の過剰な閉じ込めや拘束を回避し、社会との接点を可能な限り確保する。

【KPI】

内容	単位	基準値	H30		R1	R2
			計画値	実績	計画値	
1 国民健康保険特定健診受診率	%	30.90	31.00	30.00(※)	34.00	37.00
2 事業に参画する民間事業者数	社	0	5	5	15	25
3 おでかけ定期券の1日平均利用者数	人/日	2,748	2,768	2,732	2,788	2,808

※国の法定報告値の公表は令和元年11月であり、記載の実績は速報値である。

7. 「富山ガラス」ラグジュアリーブランド化推進事業[H30～R2]

富山のガラスにさらに戦略的に高付加価値を加え、「富山ガラス」として世界に誇れる日本発のラグジュアリーブランドとして再開発し、昇華させ、国内外に向けた販路拡大や、富山で育ち、富山で活動する作家の独立支援につなげる。

また、富山市発のブランドとして外部から高い評価を受けることにより、文化度の高いまちとして市民が実感し、シビックプライドが醸成され、定住につなげる。

総事業費(千円)

H30	R1	R2	期間計
24,678	36,030	10,746	71,454

(1)富山ガラスラグジュアリーブランド化推進事業(事業費:71,454千円)

これまで、富山のガラスのブランド力向上のため、独自の素材開発やアート分野における市場開拓等、様々取り組んできたが、富山ガラスとして一貫したブランドを確立するため、首都圏の百貨店の協力により、産業化することが難しい個人作家のガラス作品をまとめてブランディングし、売れる商品を作り出す。

また、発信力の高い首都圏の百貨店において戦略的に販売を展開することで、ビジネスとして確立させる。

①ブランディングと商品開発

富山市と首都圏の百貨店が共同し、ディレクター、職人、デザイナー、ガラス作家等の座組を設定

②販売トライアル

首都圏の百貨店にてトライアル販売を実施し、MD、価格、販売手法等を検証

③ブランドのローンチ

首都圏の百貨店の店舗にて、コーナー展開またはショップ展開により、ブランドとしてデビュー

④多店舗展開

様々な百貨店や専門店にて、広範囲での展開を目指す

⑤PRツールの作成

本市にゆかりのあるガラス作家の活動や作品を戦略的にPRするツール(紙媒体)を作成

【KPI】

内容	単位	基準値	H30		R1	R2
			計画値	実績	計画値	
1 富山ガラス工房における年間売上額	千円	131,699	141,699	136,854	156,699	178,699
2 首都圏の百貨店における売上額(富山ガラスブランドとして販売したもの)	千円	0	0	729	5,000	16,000
3 TOYAMAキラリ(富山市ガラス美術館を含む総合施設)公益施設の年間来館者数	人	623,584	643,584	1,058,161	663,584	683,584

8. SDGsの実現に向けた、コンパクトシティ戦略による付加価値創造都市形成事業 [R1～R3]

富山市型コンパクトシティ戦略を機軸としながら、SDGsの取り組みを推進することで、これまで進めてきたLRTネットワークをはじめとする公共交通の活性化施策に加え、再生可能エネルギー等の地域資源の地産地消を達成する自立分散型エネルギーインフラのネットワークを組み合わせることにより、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを一層深化させ、技術・社会イノベーションを創出し、持続可能な付加価値の創造を目指す。

加えて、健康志向や長寿社会を背景とした漢方薬・生薬ニーズの高まり等をふまえ、医療系大学の知見を活用した薬用植物栽培システムの構築、IoT等を活用した「えごま」を含めた地域特産の戦略的な開発と安定生産システムの確立、さらに関連産業の先端技術の応用展開を図ることにより、技術・社会イノベーションの創出と地域経済を活性化させるヘルシー&スマートシティの形成を目指す。

総事業費(千円)

R1	R2	R3	期間計
65,500	56,300	52,000	173,800

(1)SDGs普及展開事業(事業費:80,000千円)

「住み続けられるまちづくり」の達成のために、市民にSDGsの理念を浸透させる。

(2)市民の「歩くライフスタイル」への行動変容を促す施策の実施(事業費:44,800千円)

過度に自動車に依存したライフスタイルからの脱却を図り、行動変容を促すICTを活用した施策を実施し、歩いて健康に暮らせるライフスタイルの定着を図る。

(3)ナノ粒子化技術を活用した医薬品関連産業イノベーション創出(事業費:6,000千円)

機能性食品等の開発につなげることを目指し、ナノ粒子化技術を応用し、健康効果の高い成分を高培養抽出する基礎研究及び臨床試験を行う。

(4)梨剪定枝等のバイオマス利活用実証(事業費:30,000千円)

バイオマスから創出する熱・電気エネルギーを公共施設・温浴施設・ハウス栽培等へ還元することにより、郊外部における再生可能エネルギーの推進可能性を検討する。

(5)ICT・AIなどスマート農業技術を活用した大規模生産体制の確立(事業費:13,000千円)

耕作放棄地を再生した大規模圃場において、ICTやAI、ロボット技術を取り入れたトラクターやドローン等を活用するスマート農業を導入することにより効率的かつ安定的なえごまの大規模清算体制の確立を図り、他の農産物へも利用拡大を図る。

【KPI】

	内容	単位	基準値	R1	R2	R3
				計画値		
1	公共交通沿線居住(公共交通が便利な地域に住む)人口の割合 ※「公共交通沿線居住地区」:鉄軌道の駅から500m以内、路線バスの内1日概ね60本以上運行される路線のバス停から300m以内の区域	%	37.20	37.89	38.58	39.27
2	SDGsについての市民の認知度	%	0	5	15	30
3	SDGsサポーターの協力者数	人	0	10	30	50

地方創生推進交付金

9. 「みらい」へつなぐ持続可能な富山型グローバル交通ネットワーク形成[R1~R3] ※県広域事業

重要な社会インフラである交通ネットワークの確保・充実に取り組むことによって、県民や来訪者のさらなる地域公共交通の利用や維持・発展により交通事業者の経営改善につながるとともに、観光振興・交流人口の拡大や、産業経済の活性化など地域の発展に寄与し、「とやまの未来創生」の実現に繋げる。(県下統一バスロケーションシステムの構築及び運営)

総事業費(千円) ※富山市負担分

R1	R2	R3	期間計
1,427	763	763	2,953

【KPI】

内容	単位	基準値	R1	R2	R3
			計画値		
1 鉄軌道・バスの利用率 (県民1人あたりの年間利用回数)	回	44	44.5	45	45.5
2 観光客の県内交通機関の満足度	%	52	55	57	59
3 農林漁業等体験者数(県内における棚田オーナー、観光農園、地引網等の体験活動に参加した延べ人数)	人	58,877	60,751	62,625	64,500
4 富山空港国内・国際路線(チャーター便含む)の利用者数	人	563,672	567,282	570,892	574,502

10. 富山で暮らそう！移住支援事業[R1~R6] ※県広域事業

東京圏への過度な一極集中の是正及び地域の中小企業等における人手不足の解消を目的として、移住先の地方公共団体が地方創生推進交付金を活用して移住者に対し支援金を支給する

総事業費(千円) ※富山市負担分(負担割合:国1/2 県:1/4 市:1/4)

R1	R2	R3	R4	R5	R6	期間計
4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	28,800

【KPI】

内容	単位	基準値	R1	R2	R3	R4	R5	R6
			計画値					
1 本移住支援事業に基づく移住就業者数	人	0	155	310	465	620	775	930
2 本移住支援事業に基づく移住企業者数	人	0	5	10	15	20	25	30
3 本企業支援事業に基づく企業者数	人	0	5	10	15	20	25	30
4 マッチングサイトに新たに掲載された求人数	件	0	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000

11. 交通空間の利活用交流推進事業(トランジットモール化の検討等) [H28]

市内電車環状線(H21.12月開業)が走行する大手モールは、市民が集う城址公園、コンベンション施設、複合型商業施設、地域包括ケア拠点施設(H29.4月開業)などが集積することに加え、周辺には、市のガラス美術館・図書館本館(H27.8月開館)、刀剣をメインとする民間の美術館(H28.6月開館)が開館しており、沿線の商店主や住民によるイベント等も開催され、今後イベントにあわせたトランジットモール化も検討するなど、本市のコンパクトシティ施策の象徴的な空間となっている。

この大手モール及びその周辺において、

- ①ウェストプラザ・イベント空間施設
- ②大手モールポケットパーク・イベント空間施設
- ③まちなか体験施設

の3つの施設を一体的に整備する。

総事業費(千円)

H28	H29	H30	R1	R2	期間計
120,000	—	—	—	—	120,000

※事業費はH29年度に繰越

【KPI】

内容	単位	基準値	H28		H29		H30		R1	R2
			計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	
1 まちなかのイベント空間施設利用料、公共施設貸館収入、農産物直売所売上等の合計額(8施設計)	千円/年	397,807	398,977	397,344	405,281	385,553	419,728	393,157	426,738	433,861
2 路面電車(市内電車及び富山ライトレール)の1日平均利用者数	人/日	17,455	17,683	18,151	17,797	19,917	17,911	20,084	18,025	18,139
3 中心商業地区及び富山駅周辺地区の計12地点の歩行者通行量(日曜日)	人/日	66,249	67,374	67,239	68,499	71,846	69,624	65,643	70,749	71,874

12. 富山市総合体育館交流推進事業 [H29] ※地方創生拠点整備交付金のみ

富山市総合体育館のアリーナの天井部と一体的な施設として、大型の4面スクリーンを設置することで、施設の付加価値を高め、施設の使用料や広告料収入等の増加により、「稼ぐ施設」として自立性を高め、更なる利用促進を図る。

また、エリア全体の賑わい創出拠点として、より多くのイベント等が開催されることで、体育館を多世代の交流を生み出し「健康寿命の延伸」や「生活の質の向上」を実感出来る施設へと深化させる。

総事業費(千円)

	H29	H30	R1	R2	R3	期間計
	138,132	—	—	—	—	138,132

【KPI】

	内容	単位	基準値	H29		H30		R1	R2	R3
				計画値	実績	計画値	実績			
1	総合体育館使用料収入金額・広告料収入金額	千円/年	78,862	81,502	93,829	98,202	92,975	114,902	131,602	148,302
2	総合体育館利用者数	人/年	461,394	466,008	551,361	475,236	588,514	489,078	507,534	530,604
3	歩行者通行量(8時~19時・オーバードホール前)	人/日	2,800	2,828	3,546	2,884	2,938	2,968	3,080	3,221

13. 賑わい交流館利活用交流推進事業[R1] ※地方創生拠点整備交付金のみ

平成28年9月に休館した「賑わい交流館」が、より多くの顧客の獲得と新たな人の流れを生み出す拠点となるよう、シネマホールを映画上映と各種イベントの両方に対応可能な、ゆったりと過ごすことができる「居心地の良い」空間としてリニューアルする。

また、上映内容の差別化、館内での各種イベントの開催等、営業面の強化にも取り組み、中心市街地への来訪者・滞在者の増加を図り地域経済への波及効果を高める。

総事業費(千円)

	R1	R2	R3	R4	R5	期間計
	45,859	—	—	—	—	45,859

【KPI】

	内容	単位	基準値	R1	R2	R3	R4	R5
				計画値				
1	賑わい交流館の映画入場料収入	千円/年	0	0	21,770	21,900	22,995	24,090
2	ライブホールの貸館収入	千円/年	0	0	3,000	3,120	3,240	3,360
3	中心商業地区の計12地点の歩行者通行料	人/日	36,126	0	36,257	36,389	36,522	36,657